平成29年（2017年）7月発行
地域医療ネットワークの会
聖マリアンナ医科大学病院
メディカルサポートセンター　事務局

地域医療ネットワークの会

ち★ネット！

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です！

平成28年6月15日　第30回　地域医療ネットワークの会

テーマ：糖尿病患者の在宅支援

今回は40施設、120名の参加があり、発展する糖尿病治療薬の知識を学びながら、
糖尿病患者の在宅生活支援について実践で活躍されている3名の方より情報提供をしていただきました。

	座長　世話人	訪問看護ステーションゆらりん	林田菜緒美
	世話人	聖マリアンナ医科大学病院	行田菜穂美
インスリンの最新治療と在宅生活	聖マリアンナ医科大学病院	代謝・内分泌内科医	石井聡
インスリン注射と介護保険	フレンド神木地域包括支援センター	保健師	石黒愛
インスリン治療中の方への訪問看護～自己注射の支援を通して～	よみうりランド訪問看護ステーション	訪問看護師	瀬野匡代
意見交換			

石井医師からは、高齢者の血糖コントロール目標や安全な薬物治療ガイドライン、各インスリン製剤の特徴や、GLP１受容体作動薬について情報提供がありました。次に石黒保健師からは、介護保険でのヘルパー事業所別、介護保険施設別のインスリン介助や受け入れの現状について、瀬野看護師からは、認知症患者と家族の事例、血糖管理に関する認識や動機づけがない患者・家族の事例についてお話がありました。

患者・家族の生活背景に合わせてインスリンの種類やデバイスを検討する必要があること、外来では残薬のことや、生活状況を把握するには限界があるため、医療機関と訪問看護やケアマネジャーは、どのように情報を共有することができるのか意見交換をしました。現在、患者・家族と医師、看護師のみがインスリン注射を行う制度になっていますが、薬剤師や日々訪問するヘルパーたちもそれぞれの立場で何をすることが出来るのか、地域でも多くの人が関心を持って声を上げていき、制度として少しでも後押しできれば、という発言もありました。

アンケートでは「診療から介護までの対応、実務者レベルでの話も聞けて良かったです。」「在宅の支援に向けて多職種での連携を深めて、情報交換をしていくことが重要になっていくと感じました。」といった意見がありました。地域全体で力を合わせることで、糖尿病をもつ高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく生活ができるようになると、実感した会でした。